

季刊



弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第14号 (2014年7月)

サマーナイトミュージアム
出雲弥生の森の夏

8月9日(土)

博物館と西谷2号墓展示施設を、夜8時まで開館を延長して皆さまをお迎えいたします。

企画展も開催中。この機会にぜひ、お立ち寄りください。

★「バックヤードツアー」開催

1回目 18時

2回目 19時

普段見ることのできない博物館の裏側を見学できます。

弥生フロンズネットワーク4館で今年も「クイズスタンプラリー」をやります。

【古代出雲歴史博物館】

【荒神谷博物館】

【加茂岩倉遺跡ガイダンス】

【出雲弥生の森博物館】

7月12日～9月15日

内容…クイズに答えて、それぞれのスタンプを集めると

・2館目から観覧料の割引を!

・スタンプ2個で温泉割引券を!

・スタンプ4個で「特製4館缶

キーホルダーセット」を!

さらに、抽選で「勇者の逸品」を!

※他の割引ぎとの併用はできません。

夏季企画展

古代の出雲びと、
文字を書く

—示す・伝える・祈る—

7月19日(土)～9月8日(月)



★関連講座

7月21日(月)

「日本古代における文字の使用とその背景」

【講師】市 大樹氏(大阪大学)

8月3日(日)

「古代の出雲びとが土器に書いたこと」

【講師】高橋 周

(出雲弥生の森博物館)

8月30日(土)

「日本古代の墨について」

【講師】山路 直充氏

(市川考古博物館)

●時間 14時～16時

●定員 80名

★企画展関連 無料体験コーナー
万葉衣装を着てみよう!



★企画展体験教室

8月16日(土) 14時～16時

内容…「古代の方法でオリジナルの紙をつくるう!」

場所…たいけん

学習室

定員…10組



★夏休み子ども体験教室

8月23日(土) 10時～12時

内容…博物館で育てた藍の生葉を摘んで、ハンカチを染めてみよう!

場所…たいけん

学習室

定員…25名



持ってくるもの…エプロン、帽子、タオルをご持参のうえ、汚れてもよい服装でお越しください。いずれも参加費は無料ですが、事前申込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

★特集 研究ノート⑬
夏季企画展

「古代の出雲びと、文字を書く
―示す・伝える・祈る―」

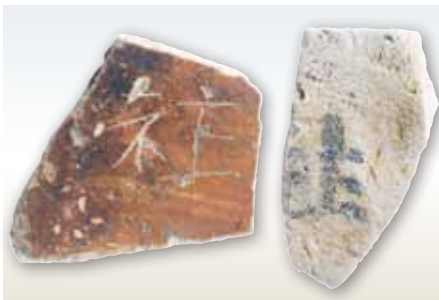
日本列島で最も古い文字は弥生時代にまで遡ります。しかし、多くのひとが文字を使い始めたのは、律令（現在の法律に相当）にもとづく政治が行われるようになった飛鳥時代から奈良時代にかけてのことです。当時の人びとは、その内容によって紙、木札、土器に文字を書いていました。

紙は大量の文字による情報が必要な場合、例えば、戸籍や税の帳簿などの作成に用いられました。紙は現地で調達することになっていたので、出雲でも生産されたと考えられます。青木遺跡（東林木町）では、漆を保存するために再利用した紙（漆紙文書）が見つかっています。

また、木札にも文字が書かれました。そのような木札のことを木簡と呼びます。小刀で削れば何度でも文字を書くことができ、また、荷札などとしても使えるため、紙よりも実用的な文房具だったと考えられます。古代の役人を指す

言葉に「刀筆の吏」との語がありました。文字を書く際に筆を使い、文字を消す際に刀で削るという意味です。役人にとって木簡が欠かせないことを示しています。木簡は都だけでなく、地方でも見つかっていて、市内では青木遺跡や三田谷Ⅰ遺跡（上塩冶町）などで出土しています。

そして、土器にも文字が書かれました。墨で文字が書かれた土器を墨書土器、文字が刻まれた土器を刻書土器と呼びます。土器には多くの場合、土器の底の部分に1〜2文字程度しか書かれませんが、多数の文字で情報を伝える機能をもつ紙や木簡とは対称的に、土器に書かれた文字は、土器自身の所属やその内容物の性格を端的に示



「社」と書かれた土器
（矢野町 矢野遺跡）

すものと言えます。紙や木簡と比べて文字数は格段に少ないのですが、その一文字が歴史的な背景を示すこともあります。

写真の「社」と書かれた墨書・刻書土器は、矢野遺跡で出土しました。現在の八野神社に近いことから、『出雲国風土記』に記された「八野社」に関わるものと考えられます。こうした「社」の墨書・刻書土器は市内では他に鹿蔵山遺跡（大社町杵築南）や青木遺跡（東林木町）でも見つかっています。「社」と書かれた土器がまとまって複数の遺跡で確認できる地域は全国的に珍しく、律令による神社制度がいち早く成立したとされる出雲国の特徴を示しています。

また、山持遺跡（西林木町）では「華」と書かれた土器が出土しています。この土器は、道路の造成土の中から見つかりました。「華」の文字は仏教に関わる文字と考えられ、道路の造成工事中に仏教的な儀式が行われた可能性を示しています。

同様に、仏教に関わるものとして、築山遺跡（上塩冶町）で「勝」と刻まれた鉄鉢の形をした土器が見つかっています。鉄鉢とは、お



「勝」と刻む鉄鉢形土器
（上塩冶町 築山遺跡）

坊さんがたく鉢をして回る際に布施の食糧をもらうための器で、築山遺跡の周辺に仏教施設があったと考えられます。そうした性格の土器に刻まれた「勝」とは、勝（勝部）という氏族の名称だと考えられます。奈良時代には、仏教的な営みに対して、自らの財産を投じることで、現世や来世の平安を祈る行為がなされたことから、この鉄鉢形土器は勝（勝部）氏の平安を祈ったものでしょう。

今回の企画展では、出雲市内および県内の遺跡から出土した「古代の出雲びと直筆の文字」である墨書・刻書土器を切り口に、当時の社会の様相や古代の出雲びとと文字との関係について考えます。

（高橋 周）

★ギャラリー展

開催中〜9月29日(月)

「上長浜貝塚」

上長浜貝塚(出雲市西園町)は、出雲平野の西の端、日本海にほど近い砂丘上に位置します。

遺跡は平成4年(1992)に発掘調査が行われ、縄文時代から平安時代までの遺跡とわかりました。ここでは、平安時代の貝塚を紹介します。

貝塚は、食料とした貝類の殻が捨てられ、それが堆積した遺跡です。日本では主にその大半が縄文時代に形成されますが、上長浜貝塚は平安時代のものです。

約700㎡(およそ50mプール1個分)もの広さがあり、これは、古代の貝塚としては全国最大級です。貝類はシジミ・マガキ・オキアサリなど42種類を確認しましたが、ほとんどがシジミです。

貝殻の炭酸カルシウムによって、通常は残りにくい骨などが見つかります。魚類はサメ・スズキ・ナマズなど25種類、鳥類はカモ・ウミネコ・ハクチョウなど5種類、哺乳類はシカ・イノシシ・イヌなど10種類の骨が見つかりました。

これらの生物の生息域と出土量から、上長浜貝塚を残した人たちは主に汽水域(神門水海)で活動していたことがわかります。

漁具も多く出土しています。網のおもりが、約600点出土しています。おもりの大きさと重さからも汽水域(神門水海)で盛んに漁が行われたことがわかります。

写真は、海釣漁のしかけを復元したものです。石のおもりに釣り糸を掛ける溝(逆T字状)があるのが特徴です。重さは1kgを超えるものが多く(写真は1.2kg)、潮の流れが速い日本海で、海底にいる魚、あるいは体長1m以上の大形魚を釣るために使われたのでしよう。日本海沿岸特有のおもりです。

上長浜貝塚は、平安時代の漁撈活動のようすがよくわかる遺跡です。この機会に、是非ご覧ください。

(坂本 豊治)



海釣漁のしかけ
(釣針と糸は現代)

★発掘調査速報展

開催中〜9月1日(月)

「杉沢横穴墓群」

発掘調査速報展

杉沢横穴墓群は、出雲市斐川町直江に所在し、斐川中央工業団地予定地内の東側丘陵に築かれています。市文化財課では、斐川中央工業団地予定地内での発掘調査を進めており、平成24年度から平成25年度にかけて杉沢横穴墓群の発掘調査を実施しました。

過去の道路工事の際に、斐川町教育委員会によって、杉沢横穴墓群が築かれた丘陵の一部が調査されていますが、今回の調査では、丘陵全体を対象に発掘調査を行いました。

杉沢横穴墓群は合計で15基の横穴墓から構成され、横穴墓は、入口から奥に向かって前庭・羨道・玄門・玄室に分かれます。出雲市内では玄門がない横穴墓が一般的で、前庭から玄室までの通路に羨道と玄門を設けるつくりは出雲市内では少なく、松江・安来市内で数多く確認されています。

また、横穴墓からは主に須恵器が出土しており、古墳時代後期後

半から奈良時代頃(約千三百年前)のものであると考えられます。

その中でも奈良時代の須恵器が比較的多く見受けられ、中には器面がツルツルした須恵器が数点存在します。これは硯に用いられたと考えられます。そのため、横穴墓は古墳時代後期から奈良時代まで使われ、その時に葬られた人物は硯を使う人(≡役人)であったのかもしれない。

今回の速報展では、過去に行われた発掘調査の成果を含め、調査で明らかになった杉沢横穴墓群の特徴や出土した遺物を中心に展示していますので、是非ご覧ください。

(幡中 光輔)



杉沢横穴墓群の全景(南より)

★博物館イベントのご案内

◆「将棋フェスティバル」開催

7月27日(日)

「プロ棋士指導対局」定員40名

9時～12時

(受付:8時30分～10時30分)

受付は当日先着順です。

「第4回里見香奈杯争奪

出雲弥生の森ジュニア将棋大会

13時15分～17時

(当日の見学は自由です。)

※あわせて市内の高浜I遺跡から出土した将棋盤を展示します。

◆弥生の森お月見コンサート

9月23日(火祝) 18時

秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。

(弥生の森おまつ主催)

前売券 500円

(中学生以下無料)

8月上旬から発売予定。

おたずねは、大津コミュニティセンターまで。

【電話】21-0172



★史跡公園「出雲弥生の森」

樹木だより

史跡公園を訪れる人が、木の名前を覚え、みどりに親しめるように、松井義己氏(出雲市大社町遙境)の指導のもと、樹名板を取り付けました。

公園内をゆっくり散策しながら、季節ごとに変わっていく樹木の表情を眺めてみませんか。その一部をご紹介します。

樹木名「アカメガシワ・赤芽柏」

落葉高木。花は7月頃咲くが、目立たない。新芽は赤く、名前はカシワの葉と同じように食べ物を載せるのに使ったことに由来する。雌雄異株。ゴサイバ(五葉葉)、サイモリバ(葉盛葉)の別名もある。



樹木名「ヤマモモ・山桃」

常緑高木。実が6月頃に紅色から暗紅色に熟し、甘酸っぱく生で食べられる。ジャムや果樹酒にすることも出来る。雌雄異株。



暗紅色に熟し、甘酸っぱく生で食べられる。ジャムや果樹酒にすることも出来る。雌雄異株。

★館長コラム⑩



斐川町の荒神谷遺跡に行くと、木漏れ日の谷間で誰もが興奮していた真夏の日々を思い出します。そう、あれからもう30年です。

一九八四年七月のある日、県教委の方から銅剣が発見されたことを知らされました。銅剣は当地では大変珍しい遺物ですから、公表すると大騒ぎになって調査に支障が出るので、急いで秘密裏に発掘し、調査終了後に発表する予定だと言います。現場が見られるのは今のうちだと思って早速駆けつけると、林の中のトレンチで数本の銅剣が顔を出していました。

私は次の日も現場に行きました。ところが、谷の入り口(今の博物館の前あたり)まで行つたとき、調査を手伝っていたMさんが走って来て、「今、新聞記者が来ている。何も出ていないとシラを切っているところなので、来られては困る」と追い返されたのです。考えてみれば、いつもは静かな田園地帯の狭い道を、慌ただしく人が往き来していたわけです。不審に思った住民が通報したとし

ても、おかしくありません。

夕方再び現場に行くと、数十本の銅剣の茎なかの部分が、ずらりと並んで見えているではありませんか！ さらに夜、「どうやら百本以上になりそうだ」と電話で聞かされたときは、不覚にも足ががたがた震えてしまいました。何せ当時、銅剣は県内では9本しか発見されていなかったのです。

県教委も腹をくくって、翌朝、記者発表をしました。こうして、今や伝説となった荒神谷フィーバーが始まったのです。なお、358本と報道された頃には、もう足は震えませんでした。(渡邊貞幸)

(発行)出雲弥生の森博物館 2014年7月

〒693-0011 鳥根県出雲市大津町 2760

(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617

(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00～17:00(入館16:30まで)

●休館日/火曜日(祝日の場合は翌日)